

授業アドバイスシート

【小学校国語①】

日常で活用する力をつけられる、
漢字学習の取組を工夫しましょう。

実態

- 漢字の読み書きにおいて全国の正答率と差が見られます。
(例：「かん理 → 試験管」 -4.5 ポイント、「せつ極的 → 面積」 -4.4 ポイント)

対策

- ① 日常生活の中で適切に使うことができるよう、同じ音や同じ部分をもつ漢字との違いや、文脈の中での使い分けに着目させる指導をしましょう。

これまでの小学校調査における漢字の読み書きの愛知県の正答率

平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
・ <u>建築</u> する 86.3%	・ <u>券</u> 98.4%	・ <u>標識</u> 90.1%	・ <u>招く</u> 90.1%
・ <u>独立</u> 90.1%	・ <u>子孫</u> 79.0%	・ <u>街灯</u> 86.2%	・ <u>信念</u> 86.2%
・ <u>許す</u> 94.3%	・ <u>採集</u> する 62.7%	・ <u>勢い</u> 71.6%	・ <u>承知した</u> 71.6%
・ <u>いしゃ</u> 79.8%	・ <u>やく</u> 71.5%	・ <u>さら</u> 97.8%	・ <u>あびる</u> 97.8%
・ <u>たいよう</u> 83.3%	・ <u>ていしゃ</u> 41.7%	・ <u>いわう</u> 56.2%	・ <u>鳥のす</u> 56.2%
・ <u>ぬの</u> 89.8%	・ <u>もうける</u> 49.6%	・ <u>よぼう</u> する 73.8%	・ <u>びょういん</u> 73.8%
愛知 87.3%	愛知 67.2%	愛知 79.2%	愛知 78.6%
全国 88.8%	全国 69.0%	全国 81.1%	全国 82.6%
差 -1.5 ポイント	差 -1.8 ポイント	差 -1.9 ポイント	差 -4.0 ポイント
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
・ <u>快晴</u> だ 75.3%	・ <u>参加たいしょう</u> 36.1%	・ <u>せい造</u> → <u>新製品</u> 70.6% (73.4%)	
・ <u>貯金</u> する 97.5%	・ <u>きぼう</u> 者 75.3%	・ <u>せつ備</u> → <u>設ける</u> 80.4% (82.2%)	
・ <u>省く</u> 78.7%	・ <u>期限</u> 93.3%	・ <u>しょう毒</u> → <u>消す</u> 80.2% (82.2%)	
・ <u>たね</u> をまく 84.3%	・ <u>事務室</u> 86.5%	・ <u>かん理</u> → <u>試験管</u> 60.5% (65.0%)	
・ <u>したい</u> い 72.8%	・ <u>おいて</u> ある 73.5%	・ <u>せつ極的</u> → <u>面積</u> 47.0% (51.4%)	
・ <u>そうだん</u> する 59.1%	・ <u>指示</u> 72.8%	※同じ漢字が使われているものを選ぶ設問。()内は全国	
愛知 78.0%	愛知 77.3%	愛知 63.6%	
全国 80.7%	全国 79.4%	全国 67.0%	
差 -2.7 ポイント	差 -2.1 ポイント	差 -3.4 ポイント	

<ポイント>

- ・ 同じ音や同じ部分をもつ漢字との違いや、文脈の中での使い分けに着目できるように指導したり、そこから漢字の成り立ちや部首の意味など、漢字への理解を深める学習につなげたりしましょう。

◇日常で活用する力をつけられる漢字学習の取組を工夫しましょう。【継続】

「考えて覚える」漢字練習を行おう（全学年）

・ 機械的に繰り返し書くだけの練習では、定着しづらく、漢字に対して苦手意識をもつ子供たちも少なくありません。楽しみながら漢字に触れる場を設定し、子供たちが主体的に漢字学習に取り組むような指導に努めましょう。

段階的な漢字指導

低学年・・・漢字の字形と具体的な事物（実物や絵）とを結び付け、漢字に対する興味や関心を高めましょう。

中学年・・・漢字のへん、つくりなどの構成を教え、漢字のもつ意味を考えながら使うように指導しましょう。

高学年・・・漢字のもつ意味を正しく理解させ、**同訓異字や同音異義語に注意**して使うように指導しましょう。

様々な場面で、既習漢字を積極的に使う意識をもたせよう（全学年）

・ 授業だけでなく、作文、日記、連絡帳等、様々な書く活動において、既習漢字を積極的に使うよう指導しましょう。子供同士で書いたものを読み合い、正しく使用しているかどうか評価する活動を取り入れたり、教師が朱書きを入れたりなど、意識化を図ることが大切です。そして、日常生活で活用できたことに対して、認めたり価値付けをしたりすることで、子供たちに自信をもたせ、読み書きの確かな定着へつなげていきましょう。

言語環境を整え、語彙を広げよう（中・高学年）

- ・ 辞書を引く習慣を身に付ける。

国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べたり、類語辞典などを用いて語句の適切な使い方を調べたりする学習を習慣づけ、語彙を広げながら正しく適切に漢字を標記できるように指導しましょう。

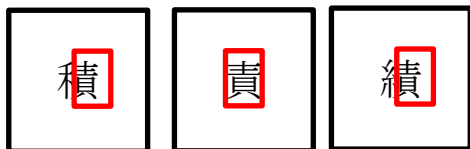
- ・ 索引の使い方や辞典の特色等についての理解を深めさせましょう。
- ・ 調べ学習や日常生活の中でも積極的に辞典を利用できるように言語環境を整えましょう。

取組例① <漢字カード（短冊）集め（漢字の理解を深める取組）>
 （中・高学年）（参考）平成30年度全国学力・学習状況調査報告書 P.49

① 同じ音で読む漢字集め

【同音異義語など、同じ音で読む漢字集め】

例 <せいちょう>成長・生長・清聴 <せき>積・責・績…

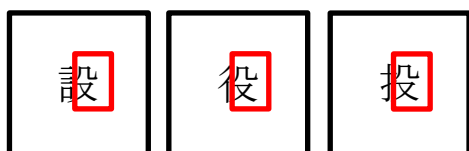


形も読み方も同じだね！
 どう使い分けているか
 調べてみよう。

② 似た形の漢字集め

【同じ部分をもつ漢字や似た形の漢字集め】

例 <読みの違う漢字>設・役・投 <似た形の漢字>完・官・管



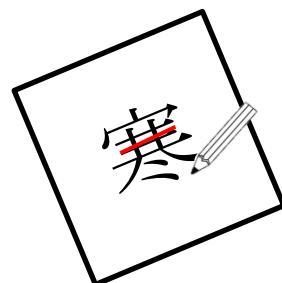
「へん」によってちがう
 意味をもつのかな？辞書
 で調べてみよう。

③ 間違えやすい漢字集め

【児童が日常生活で見つけた間違えやすい漢字集め】

例 書き間違えやすい漢字…<寒> <特徴・微生物> <持つ・待つ>
 使い間違いやすい漢字…<つとめる>務・努・勤
 <あやまる>誤・謝
 <あたたかい>温・暖

○ 並べて掲示したり、間違えやすい部分を色付けしたり、文例を挙げたりして、児童が比較できるような掲示をしたい。



→漢字の成り立ち、部首の意味、読み仮名や送り仮名の書き込み、その漢字を使った例文を書き加えるなどの工夫をし、文脈の中で使い分けることができるようにすると効果的です。

<ポイント>

- ・ 日常生活の中で児童が漢字に触れることができるように、言語環境を整えましょう。
- ・ 授業時間の他、朝の活動の時間を利用するなどして、教室内に掲示されているカードや短冊の漢字を選んで短文づくりをするなど、短時間の学習を継続的に行いましょう。

取組例②

ひらがな「お知らせ」を直そう！（低・中学年）

The image shows two versions of a notice. The left version is written in hiragana, and the right version is written in kanji. A large blue arrow points from the hiragana version to the kanji version. Two yellow callout boxes provide commentary on the revision process.

平仮名で書かれた「お知らせ」

4ねんせいのみなさんへ
ほうそうい
いいんかいかつどうのたいけんのおしらせ

1 にちじ 2がつ19にち(げつ)～2がつ22にち(も)
10じ25ふんから10じ45ふんまで

2 しゅうごうばしょ
たもくてきルーム

3 きんがたいしょう
4ねんせいのかげうしゅ

4 もうしこみきげんともうしこみほうほう
・ 2がつ14にち(すい)までにもうしこんでくだ
さい。
・ じむしつまえにもうしこみようしとはこがおい
てあります。ようしにタラスとなまえをのいて
はこにのりつけてください。

5 おねがい
・ どうじつは、ぜんいんがたいけんでき
ほうそういいいんのしじにしたがってくださ

第6学年児童が書き直した「お知らせ」

6年生のみなさんへ
敬送委員会

委員会活動の体験のお知らせ

日時 2月19日(月)～2月22日(木)
10時25分から10時45分まで

2 集合場所
多目的ルーム

3 参加対象
4年生の希望者

4 申し込み期限と申し込み方法
・ 2月14日(水)までに申し込んでください。
・ 事務室前に申し込み紙と箱が置いてあります。
用紙にタラスと名前を書いて、箱に入れてくださ

5日、全員が体験できるように、敬送委員の
前にしたがつてください。

必要に応じて国語辞典や漢字辞典を引く活動を取り入れるとより効果的となる。

新出漢字を使うこと、相手によってどこまで漢字を使うか等考えさせられるとより効果的。

(平成29年度全国学力学習状況調査 報告書より)

取組例③

変換ミスを直そう！＜同音異義語編＞(高学年)

変換ミスを直そう！（例）

○間違っている部分に線を引き、正しい漢字に直した文を書きましょう。

- ①夜が開けたので、窓を空ける。 → 夜が明けたので、窓を開ける。
- ②お皿に映したケーキを、写真に移す。 → お皿に移したケーキを写真に写す。
- ③細菌は体調が悪く、実家に寄生虫だ。 → 最近は体調が悪く、実家に帰省中だ。
- ④自動会役員2名が、歯科医を担当する。 → 児童会役員2名が、司会を担当する。
- ⑤大将を受賞した二作品は大正的な内容だ。
→ 大賞を受賞した二作品は対照的な内容だ。

正答を文で書かせることにより、対象や意味によってどう使い分ければよいか意識させることができる。

漢字の意味や成り立ちなどについてより理解を深められるよう、グループ活動などを設定するとよい。

(参考) 日本漢字能力検定協会HP

授業アドバイスシート

【小学校国語②】

主語と述語との関係に注意して、
書いた文章を推敲する活動を設定しよう

実態

- 主語と述語とのつながりが合っていない文を選択する問題で、「反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした」という正解の文を選び、正しく修正することに課題がありました。「今年の春休みは、とても充実したものとなりました。」を合っていないものとして19.0%の児童が選択してしまうなど、主語と述語の関係を適切に捉えることができていない実態があります。

対策

- ① 伝えたいことを相手に正確に伝える上で、主語と述語が適切な係り受けの関係となっていることが重要であることを指導しましょう。
- ② 様々な学習場面を活用して、主語と述語の関係を意識することができるようにしましょう。

- ・ 主語と述語は、文の骨格をなすものであり、明確な文を書く上でも最も基礎となるものです。主語と述語との照応関係が大切であることについて、文章を読んだり表現したりするときに強く意識できるように指導する必要があります。具体的には、児童が自ら主語と述語が照応していないことに気付き、正しく書く必要性を実感できるよう、他者に向けて話したり、目的や相手を明確にした実用的な文章を書いたりする学習での指導が考えられます。

<ポイント>

- 主語と述語との関係を理解できるようにしよう。
 - ①「だれが（何が）」「だれは（何は）」～「どうする」
 - ②「だれが（何が）」「だれは（何は）」～「どんなだ」
 - ③「だれが（何が）」「だれは（何は）」～「なんだ」
- 書いた文章を読み返す習慣を付けるようにしよう。
- 様々な学習場面で意識することができるようにしよう。
 - 手紙を書く、実用的な文章を書くなどの、表現するときだけでなく、文章を読むときにも意識させましょう。

主語と述語との関係に注意して、書いた文章を推敲する活動を設定しよう

取組例 <「春休みの出来事」について書いた文章を読み直そう>（2/2、全2時間）（高学年） 平成30年度授業アイデア例（国立教育政策研究所教育課程研究センター）

前時までに、春休みの出来事についての文章を書いています。本時では、主語と述語との関係を中心に、書いた文章が相手に正しく伝わるかという観点で推敲します。

学習活動1 本時のめあてを確認する

観点をしっかり押さえる

- 本時では、伝えたいことが相手に正しく伝わるように文や文章を整えることを確認する。

学習活動2 本問を活用し、文章を読み返すときのポイントについて話し合う

この文章を読んでみたら、線を引いた文が、何かおかしいなと思ったんだけど…。

用具の手入れをしなかったのは「ぼく」だから、主語がおかしいんじゃないかな。

「反省点は」が主語だから、述語が「しませんでした」だと合わないよね。

そうか。主語と述語とのつながりがおかしいだね。

なるほど。主語と述語とをつなげて声に出して読んでみると、間違いが分かるね。「反省点は、しませんでした。」だとおかしいよね。

主語の「反省点は」に合わせて、述語を「しなかったことです」に書き直したらいいと思うよ。

主語を「反省点は」から、「ぼくは」に書き直すこともできると思うよ。

春休みの出来事について書いた文章を読み直そう

めあて

相手に正しく伝わる文章にするために、文章を読み返そう。

ぼくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は見事に実りました。ぼくたちのチームは、地区大会で優勝したのです。今年の春休みは、とてもじゆう実したのとなりました。でも、反省していることもありませう。反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけではなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。

どのように書き直せば正しく伝わるか

反省点は、用具の手入れをあまりしなかったことでは、用具の手入れをあまりしませんでした。

文章を読み返すときのポイント

主語と述語とのつながりを考える。

ポイント

文章を読み返す際には、児童の実態に応じて、書いた文章を音読してみることも考えられます。

学習活動3 学習したことを基に、春休みの出来事について書いた文章を推敲し、読み直す

- 最初に書いた文章と推敲後の文章とを比べる。

書いているときには気付かなかったけれど、読み直してみると、最初に書いた文章は、相手に正しく伝わるものになっていないことが分かったよ。

児童自身が、違いを理解できるようにワークシート等を工夫したい。

授業アドバイスシート

【小学校国語③】

目的や意図に応じ、複数の資料から適切な内容を取り上げて、詳しく書く活動を設定しましょう。

実態

「紹介する文章」（資料1）と「保健室の先生の話から分かったこと」（資料2）の二つの資料から適切な内容を取り上げて、関係付けて考えて書くことが求められていましたが、どちらか一方のみしか取り上げられていない児童が多く見られました。

対策

- ① 複数の情報を関係づけて考える機会を意図的に設定しましょう。
- ② 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にした書く指導をしましょう。

- 正答率は10.9%（全国13.5%）であり、正答率が全国に比べ2.6%低いです。
①「複数の資料から適切な内容を取り上げて、それらを関係づけて理解したり表現したりすること」や、②「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くこと」に課題が見られます。
- 自分の考えたことや伝えたいことが相手に十分に伝わるように書くためには、複数の資料から情報を得て、詳しく書くことが必要となることがあります。その際、得られた情報の中から目的や意図に応じて適切な内容を選択したり、関係付けて捉えたりすることが大切となります。また、情報の何をどのように取り上げて詳しく書けば効果的であるかを整理して書くことができるように指導することが大切です。
- また、事例を挙げて具体的に説明するなど、自分の考えを具体化したり、相手の理解を促したりすることができるかどうか判断したり、根拠に裏付けられていることや他のものと比較してよさを捉えたりできるようにする必要があります。

<ポイント>

- ・ 図示しながら整理して考えることができるようにしましょう。

【整理の仕方の例】

- ①分解して捉え直す ②順序立てて再整理する ③キーワード化する
- ④必要な語句を丸や四角で囲む ⑤語句と語句を線で結ぶ 等
- ・ 複数の情報を関係づけて考える機会を意図的に設定しましょう。
- ・ 目的や意図を明確にして、自分の考えを伝える活動を設定しましょう。

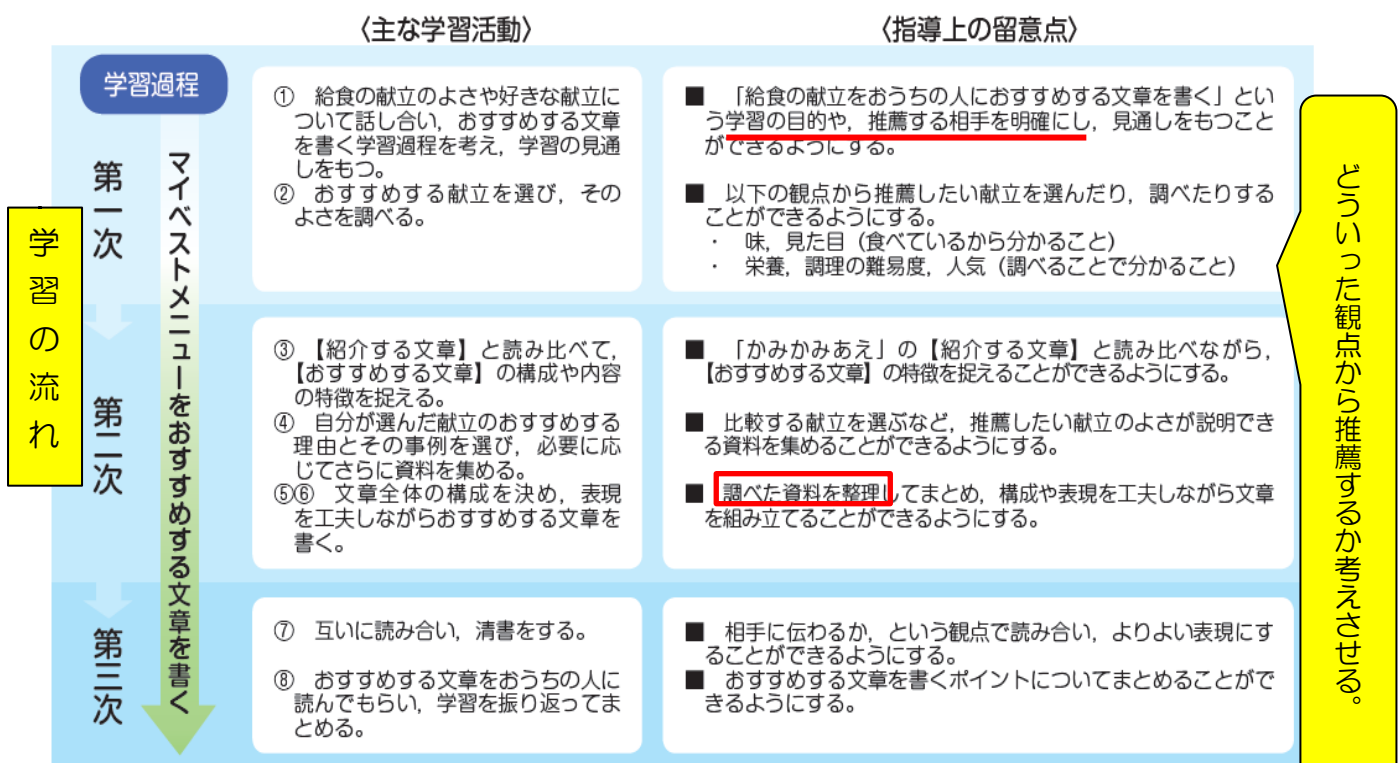
目的や意図に応じ、複数の資料から適切な内容を取り上げて、詳しく書く活動を設定しましょう。

取組例 <マイベストメニューをおすすめする文章を書こう> (高学年)

○自分の選んだ給食の献立を、保護者に推薦する文章を書く

①スピーチの目的と意図を確認する

目的意識や相手意識、
内容の中心を最初に
明確にする。



②表現を工夫しながら、おすすめする文章を書く

第二次④・⑤・⑥/8

理由と事例を選び、文章全体の構成を決め、表現を工夫しながらおすすめする文章を書く

おすすめする理由とその事例を選び、必要に応じてさらに資料を集める

相手に納得してもらえるように、おすすめする理由を書きたいな。
おすすめする文章は、栄養に気を付けている私のお母さんに読んでもらうから、栄養についての事例も書いてみようかな。給食だよりを読み返してみよう。

「ツナマヨサラダ」と「かみかみあえ」のように、似ているものを比べると、おすすめするものよさが分かりやすくなるから、「ピーマンの肉づめ」は、同じようにひき肉を使っている「ハンバーグ」と比べてみよう。

ポイント

推薦理由やそれを説明する事例を選ぶ際には、自分の目的とともに相手の要求や目的も考慮することが大切です。
また、自分が推薦する事物のよさが際立つ適切な他のものを取り上げ、比較することも考えられます。

文章全体の構成を決め、表現を工夫しながらおすすめする文章を書く

目的や意図、相手意識の再確認

おすすめする文章の構成の一部

- 【おすすめする理由①】
 - ・人気のこんだてであるから。
- 【理由①を説明する事例】
 - ・アンケートで、好きなこんだての上位三つに入っていたこと。
- 【おすすめする理由②】
 - ・病気になるにくくなるから。
- 【理由②を説明する事例】
 - ・ピーマンには、ビタミンCが多いこと。

7月9日(月)のこんだて

今日のこんだて

給食室からひとこと

今日の主菜は、リクエスト給食の、ピーマンの肉づめです。ピーマンには、ビタミンCがたくさん入っています。栄養たっぷりなので、残さず食べてください。

こんだて

- とうもろこしのたまごご飯
- とうふのおみそしる
- ピーマンの肉づめ
- 冷じろみかん
- 牛乳

給食だよりの一部

ピーマンのよさを教えてください!

ピーマンは、ビタミンCがたくさん含まれている食材です。ビタミンCをとると、

- 細胞を活性化し、疲労回復につながる。
- 常盤力という自分の体を守る力が高まるので、病気になるにくくなる。
- 血行を促進して、血液がサラサラになる。

ピーマンの肉づめ

↓

ピーマンを使うこんだて

↓

ピーマンにはビタミンCがたくさん

↓

ピーマンにはビタミンCがたくさん

↓

ビタミンC

↓

めんえき力という自分の体を守る力が高まる

↓

病気になるにくくなる

図示をして整理させる

おすすめする文章の【中】の部分の一部

二つ目の理由は、「ピーマンの肉づめ」の方が、より病気になるにくくなる効果があることです。ピーマンには、ビタミンCがたくさんふくまれています。ビタミンCをとると、めんえき力という自分の体を守る力が高まるので、病気になるにくくなるのです。

ポイント

事例を挙げて詳しく書く際には、必要な資料から情報を適切に取り上げ、関係付けて書くことが考えられます。そのためには、それぞれの情報からキーワードを見つけて囲んだり、線でつないだりしながら文章を考えていくことが大切です。

【授業アイデア例の活用のポイント】

- ・ 言語活動との関連を図りましょう。
- その他の言語活動との関連の例
 - ・ スピーチで推薦する
 - ・ 本を読んで推薦する